

令和5年度 学校だより

12月号

横浜市立上郷小学校

〒247-0026 横浜市栄区犬山町6番1号

電話 045-894-0761

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamigo/>



上郷

雪に耐へて梅花 麗し

学校長 海津 善宜

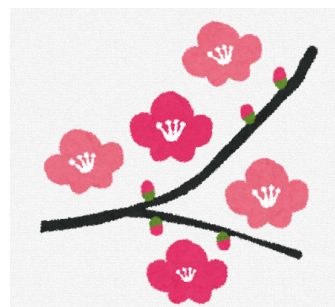
早いもので、2023年も最後の 一か月となりました。校舎から見える雄大な富士山も真っ白に雪化粧がされ、すっかり冬のいでたちとなりました。この季節になると、インフルエンザの予防策として、手洗いやうがいの励行をしているのですが、今年は早い時期から流行していることから、いつもにも増して、衛生面でのケアが大切になりそうです。ご家庭におかれましても引き続き予防を心掛けていただき、健康に 2023 年を締め括っていただきたいと思います。

さて、冬といえば、西郷隆盛のこの詩をご存知でしょうか。

耐雪梅花麗

西郷南洲（隆盛）

一貫唯唯諾	（一貫 唯々として諾す。）
従来鉄石肝	（従来 鉄石の肝。）
貧居生傑士	（貧居は傑士を生じ、）
勲業頭多難	（勲業は多難に頭る。）
耐雪梅花麗	（雪に耐へて梅花 麗しく、）
経霜紅葉丹	（霜を経て楓葉丹し。）
如能識天意	（如し能く天意を識らば、）
豈敢自謀安	（豈敢へて自ら安きを謀らんや。）



この漢詩は、西郷隆盛が甥にアメリカに留学する際に贈ったものです。現代風のことばで訳すと、「はい」と答えて留学を決めたからには、最後までやり通さなければならない。それには、鉄のように固い意志が必要である。豪傑の士というものは貧しい生活をしてきた人の中から現れ、手柄は、多くの困難を乗り越えてこそ立てられるのだ。梅の花は、雪の冷たさに耐えてはじめて美しく咲き、楓の葉は、霜を経てはじめて真赤にいろづく。お前が、もしこの天の計らいに気づくことができたなら、どうして安易な生き方を自ら選んだりしようか（いや、選んだりはしないはずだ）。梅の花は冬の冷たい雪や厳しい寒さを耐え忍んで乗り越えるからこそ、初春に素晴らしく美しい花を咲かせて、そのかぐわしい香りを発する。人間は苦難や試練をなんとかがんばって耐え抜き、そしてそれを乗り越えることができれば、大きく成長して成功するのだということです。身が引き締まることばです。特に、5行目の『雪に耐へて梅花 麗し』は、ことわざにもなっており、広島東洋カープ、ニューヨーク・ヤンキースで活躍した黒田博樹選手が、座右の銘としてチーム・ミーティングで紹介したと言われています。当時のニューヨーク・ヤンキースの主将であるデレク・ジーター選手は「この詩は、直接われわれに当てはまるもの。よい時も悪い時も、いつも同じように汗を流し続けることが大切。頑張れば、必ずその報いがある。」とチームメイトに語ったそうです。また、ジラルディ監督は、梅の花の写真を自身のパソコンの壁紙にしたという話もあります。

梅や桜の花が厳しい冬を経験するように、人にも生きていくうえで物事がうまくいかなかったり、結果を出せずに落ち込んだりする「冬」の期間は必ずあります。上郷小の子どもたちには、いくら今が辛い状況だったとしても、あきらめずに前を向いて一歩でも二歩でも自分のペースで少しずつでも前に進んでいけば必ず報われると考えられる人になってほしいと思っています。私としては、子どもとかかわる大人の一人として、いつか訪れる「春」に向かって、勇気を出して一歩踏み出そうとする子どもたちの背中を未来が一層明るく、輝かしいものになってほしいと願いながら、そっと支えることができたと思います。

少し早いですが、今年一年間、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動にご理解とたくさんのご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。